

令和5年1月23日

株式会社そごう・西武
代表取締役社長 林 拓二 様

千葉市長 神谷 俊一

そごう千葉店に係る今後の検討に関するお願い

昨年11月11日に、株式会社セブン&アイ・ホールディングスから、フォートレス・インベストメント・グループへの株式会社そごう・西武の株式譲渡が発表され、一部店舗にヨドバシカメラが出店するとの報道も出ております。千葉駅東口には、既にヨドバシカメラ千葉店が店舗を構えており、現段階では、そごう千葉店が今後どのようなフロア構成になるのか、十分な情報を有しておらず発表を待っている状況ではありますが、本市としては、これまでそごう千葉店が担ってきた機能や役割をご理解いただいた上で、できるだけ継承していただきたいと考えております。

市内で唯一の百貨店であるそごう千葉店は、まちのシンボルとして長きにわたり市民の皆様におかれ、市民の生活や市内の消費を支えてきた重要な商業施設であり、地下の食品フロア、上品さや高級感があり立ち寄りたくなる1階化粧品・アクセサリ売場をはじめ、日用品から贈答品、高級ブランドまで多彩な品目を取り揃え、本市のみならず近隣市も含む住民の消費文化やライフスタイルをけん引してきた存在であります。本市としても、市内消費を支え、さらに促進する取組みとして、地元産品の購入や地元での買い物・飲食等の増加などを促すバイ・ローカル(Buy Local)に取り組んでいるところであります。

本市とそごう千葉店とは、連携協定を締結し、まちづくりのパートナーとして、これまで生活や学び、文化や食など、様々な分野での取組みを共に進めてきました。現在では、千葉市美術館所蔵の浮世絵コレクションをメインビジュアルに活用した1階正面口等での展示や、公開空地を活用して周辺地域を結ぶ様々なイベントの企画、地下の食品フロアでの食のブランド「千」の販路拡大や県産品を集めた「千葉の銘菓・名産品コーナー」の設置のほか、千葉市図書館の図書返却ポストの書店前への設置や各種選挙の期日前投票所の開設などにも連携して、市民の利便性向上と集客につながる取組みを進めているところであり、パートナーシップが各分野に広がってきているものと実感しております。このようにそごう千葉店と本市とが、文化振興、地産地消、行政サービスの利便性向上等において幅広いパートナーシップを図ることができるのは、総合的な売り場を持つ形態や立地があるからこそであり、千葉都心全体の将来像や取組みの方向性を示す「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」においても、そごう千葉店の店舗の形態や立地を前提として、駅前空間が、回遊性や賑わいを生み出し、かつ千葉の顔となる駅前にもふさわしい用途に活用できるとの考えのもと、共に取組みを進めてきたところであります。

また、ヨドバシカメラ千葉店は、千葉駅周辺の代表的な家電量販店として、1995年から長く営業されており、そごう千葉店と同様に、市民生活の文化や千葉駅周辺のまちづくりを支えていただいている、本市にとって重要な店舗であります。近年は家電量販店も日用品など取扱品目が増加しており、ニーズに合わせた事業展開をされているものと認識しております。そごうとヨドバシカメラの新たな融合は、お互いの機能を高めるとともに、市民生活をより豊かにし、利用者の利便性やニーズを踏まえた商品展開をしていただけるものと期待もしております。

今般の検討に当たり、本市としましては、そごう千葉店が担ってきた機能や役割、本市とのまちづくりにおけるパートナーシップを継続し発展していくことが、県都千葉市の顔を作り千葉都心をはじめとした本市の発展に不可欠であり、市民の利便性向上にも寄与するものと考えておりますので、引き続きの連携や協力をお願いするとともに、これまでの本市の消費文化やライフスタイルをけん引してきたフロアの構成や、落ち着いた感のある店舗の玄関口と周辺の街並みやデザインとの調和、さらには、公共空間等を活用したまちの顔づくりなどにも十分にご配慮いただきながら、今後の検討を進めていただきたくお願い申し上げます。